

国語 第4学年 言葉について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

主語と述語、修飾語と修飾される語、指示語が示す内容を確認、意図した意味に伝わる文章へ直す。何となく変だと感じて直すのではなく、語句どうしの関係を説明する。単元の終わりに残すのは、文の点検シート。元の文、語句の関係、誤解される意味、直した文、直した理由を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。

単元の目標

主語と述語、修飾と被修飾、指示語や接続語の働きを文や文章で理解できる。相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直せる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語、修飾と被修飾、指示語や接続語の働きを文や文章で理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）	①「書くこと」において、相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直している。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全4時間（知・技①、書③）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教師作成の文を読み、主語・述語や修飾の関係による意味の違いを確認する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○指示語が何を示すか、接続語が文をどう結ぶかを確認する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○自分の文章を読み合い、別の意味にも受け取れる所を関係図で確かめて直す。	思①（発言・学習記録）
第3次	4	○直した文と理由を紹介し、今後の作文で使う点検方法をまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直せる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」 【めあて】主語と述語、修飾語と修飾される語、指示語が示す内容を確認、意図した意味に伝わる文章へ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・主語と述語を順に読むと合っていないと気付く。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」 自分の文章の主語と述語、修飾する語句、指示語が指す内容に対応させる。意図した意味と異なって読める箇所を選び、語句の順序や接続を変えて書き直す。友達に修正前後を読んでもらい、意味が明確になったか確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・主語と述語を順に読むと合っていないと気付く。 ・修飾する言葉を近付けると意味がはっきりする。 ・これが何を示すか書かないと迷う。	教師作成の文で主語と述語を線で結び、修飾する関係は矢印にする。指示語を実際の語に置き換えて意味を確認する。その後は児童自身の文章で同じ方法を使い、必要な箇所だけ直す。 想定する難しさ：短文では正しても文章の中で主語が変わると見落とす。指示語を全て消すことが改善だと思う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直している。（語句の対応を書き込んだ文章・修正前後の文）
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・これが何を示すか書かないと迷う。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同

じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、短文では正しても文章の中で主語が変わると見落とす。指示語を全て消すことが改善だと思う。この場合は、教師作成の文で主語と述語を線で結び、修飾する関係は矢印にする。指示語を実際の語に置き換えて意味を確認する。その後は児童自身の文章で同じ方法を使い、必要な箇所だけ直す。おおむね満足できる状況は、相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

文の点検シート。元の文、語句の関係、誤解される意味、直した文、直した理由を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年下巻」86行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

